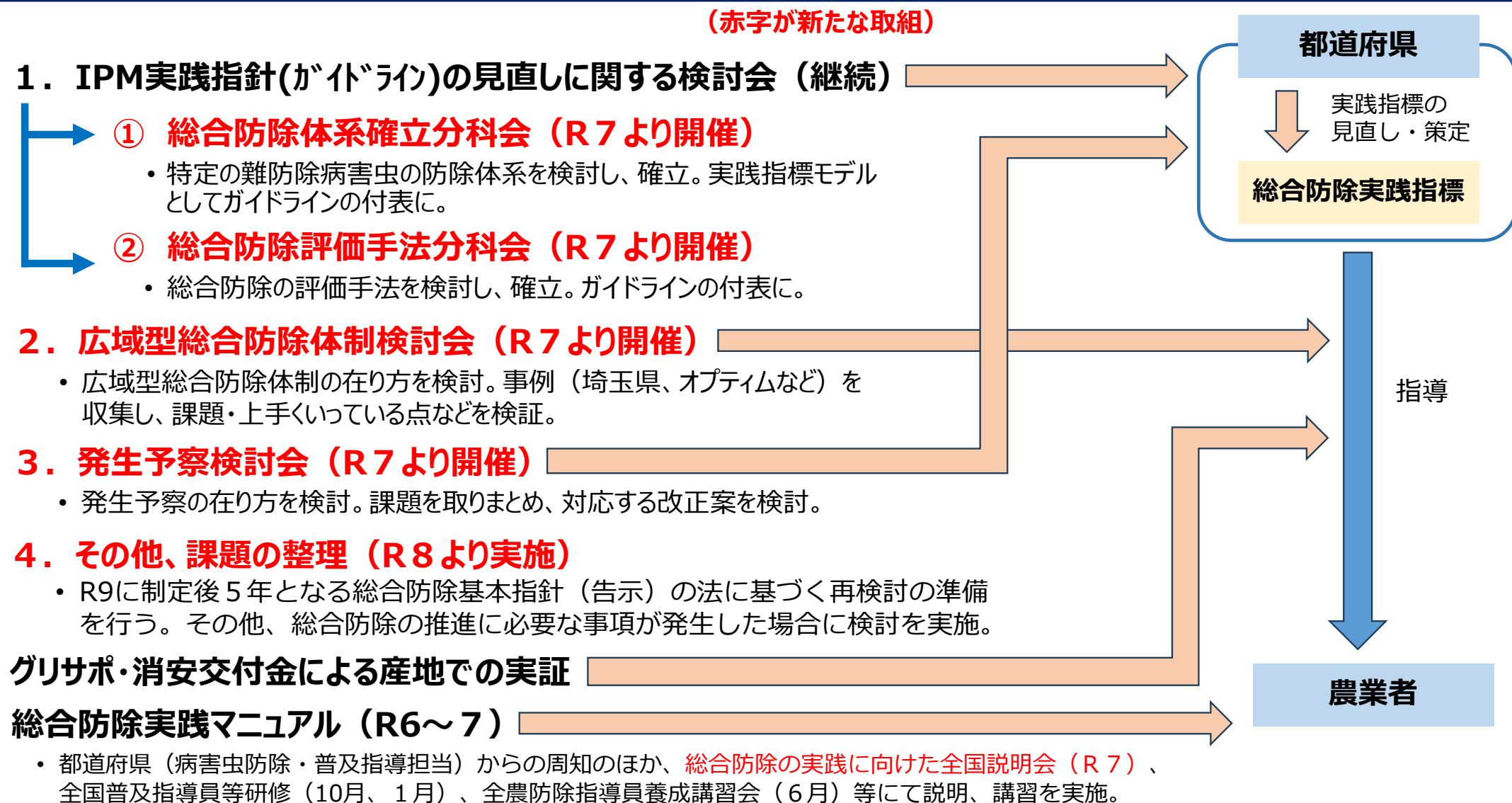


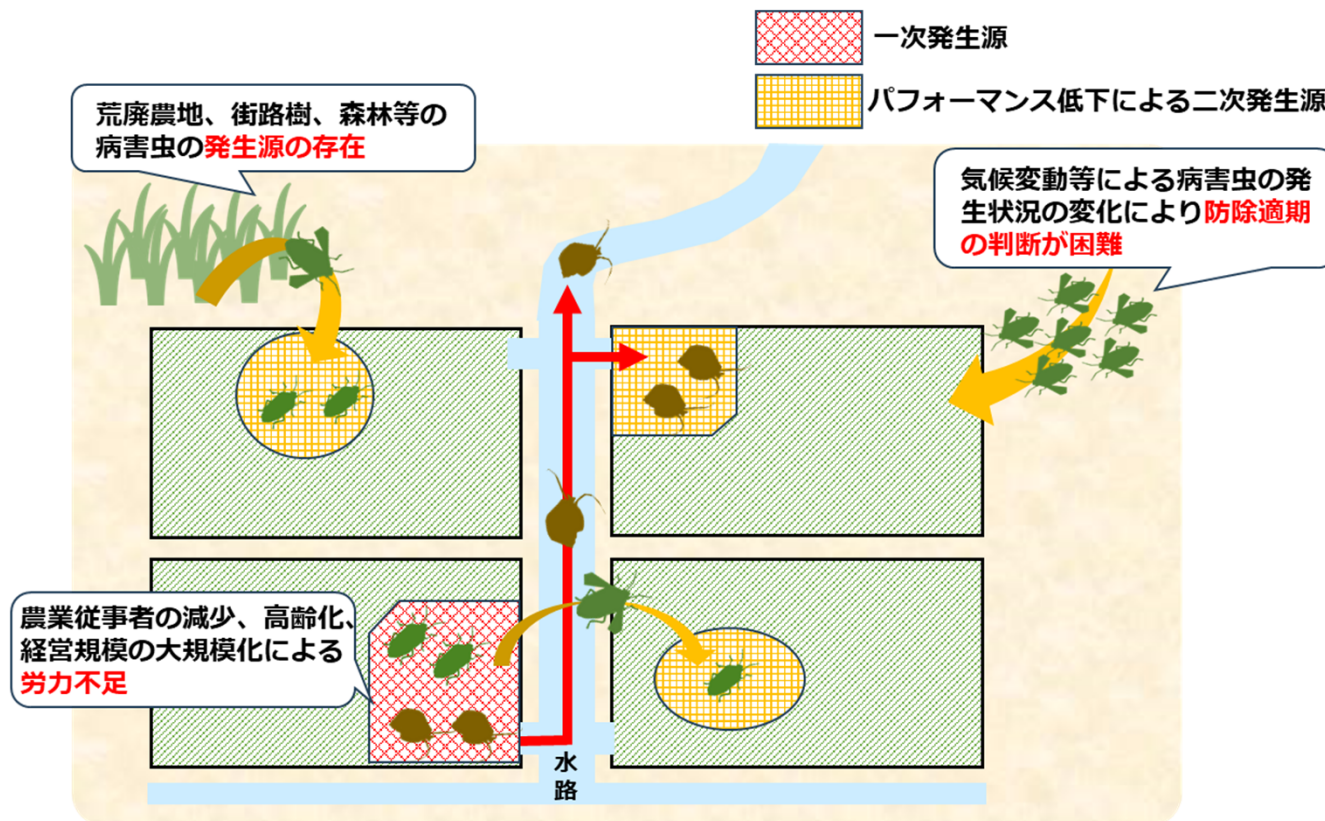
○ 総合防除推進の道行きについて（検討案）



○現状の病害虫防除体制について

- 現状は、個々の農業者が自身のほ場の状況を踏まえ、防除の是非を判断。
- この状況には以下の課題がある。
 - ① 気候変動等による病害虫の発生状況の変化により、**防除適期の判断が困難な状況**
 - ② 農業者の減少・高齢化、経営規模の大規模化等による**労力不足**
 - ③ 自身のほ場外の荒廃農地、街路樹、森林等に、**病害虫の発生源が存在**
- この結果、地域内に病害虫のスポット的な発生源が生じ、地域内の防除効果が低減。

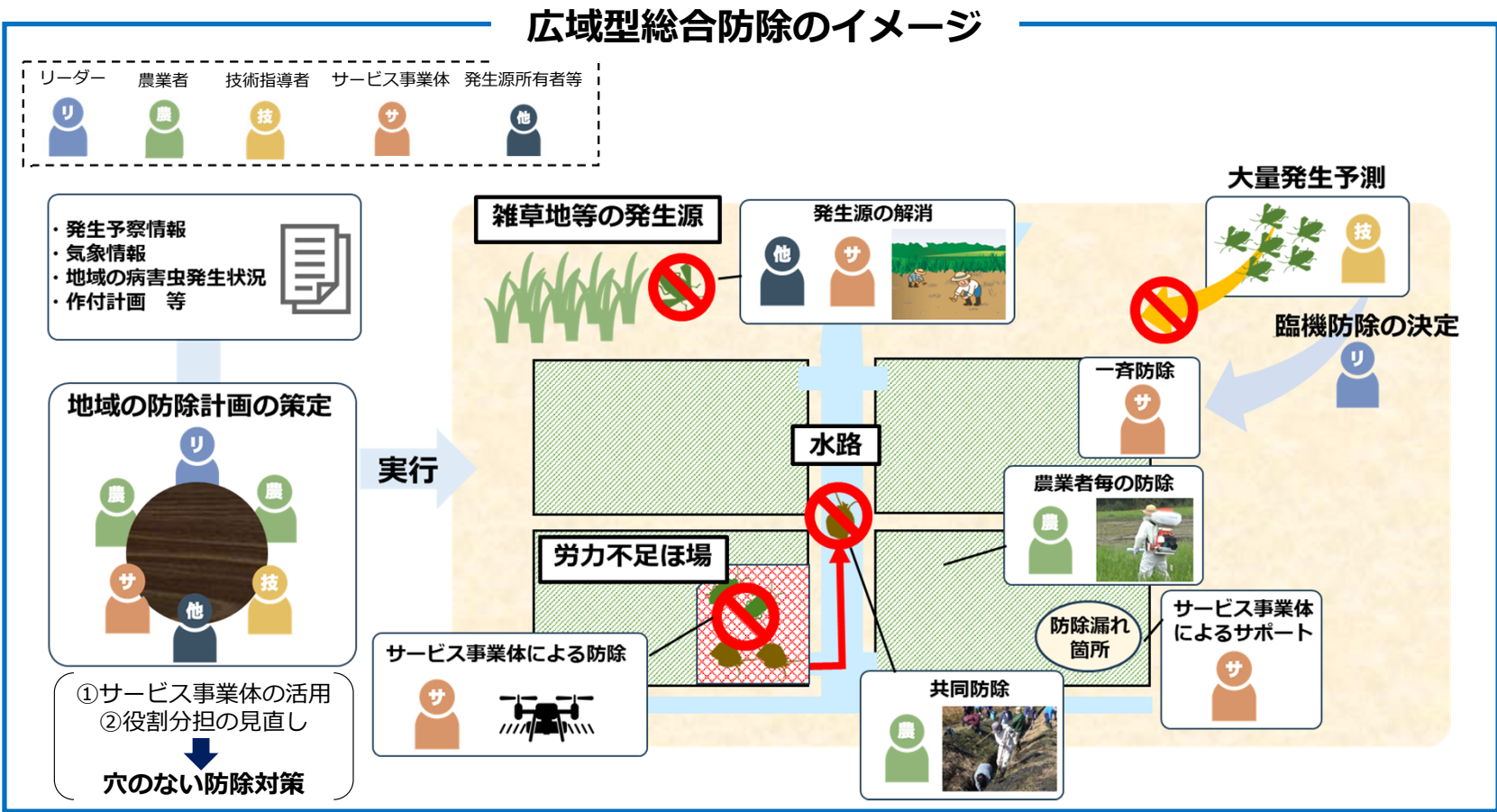
地域全体の防除
パフォーマンスの
低下



広域型総合防除体制

○現状の病害虫防除体制からの転換～ 広域型総合防除体制の構築～

- これまでのほ場単位で被害を抑えるのではなく、**地域単位で防除計画を立案し、地域一体で防除を実施する体制に転換し**、効果的・効率的な病害虫防除となるよう防除体制を再整備する必要。



- 防除組織やサービス事業者等も活用した広域型総合防除体制モデルの地域毎の検証を支援し、横展開。